

二四〇七番

百積ももさかの 舟隠ふねかくり入る 八占やうらさし 母ははは問とふとも  
その名なは告のらじ

二四〇八番

眉寝搔まよねかき 鼻はなひ紐ひもと解け 待まつらむか いつかも見み  
むと 思おもへる我われを

二四〇九番

君きみに恋こひ うらぶれ居をれば 悔くやしくも 我わが下紐したひも  
の 結ゆう手ていたづらに

二四一〇番

あらたまの 年としは果はつれど しきたへの 袖交そでかへ  
し児こを 忘わすれて思おもへや